

生成AI利用ガイドライン 生徒用



★生成AIを正しく活用する

- ❖ 生成AIを活用することで
 - 情報を理解しやすいように整理したり
 - アイディアの例を出してもらい、考えを深めたり
 - 作文の補助をもらったり
 - 問題の解説をもらったり
 - 自分のレベルにあった問題を作ってもらったり

と正しく効果的に活用することで自分の力を大きく伸ばすことができる。

- ❖ 生成AIは発展途上の技術であり、正しくない情報の出力や学習意欲の減衰など様々なリスクがある。
- ❖ 生成AIの適切な利用を目指し、注意事項を明記する。

①情報の真偽を確かめる

- ❖ 幻覚(ハルシネーション)やバイアスが発生する可能性がある
- ❖ 「生成された情報には間違いがある」ことを常に意識し、情報をうのみにしない
- ❖ 生成された情報の真偽を確かめる(ファクトチェック)

★ファクトチェックの方法

- 公式サイトなど信頼できるサイトを確認する
- 複数の情報源を比較して確認する
- 明確な根拠があるか
- Microsoft Copilotの場合
 - 検索元の「詳細情報」より情報のチェック



②個人情報、機密情報はプロンプトに入力しない

- ❖ 入力されたプロンプトは、学習モデルに利用され第三者の回答として表示される可能性がある
- ❖ 個人情報、機密情報はプロンプトに入力しない
- ❖ 回答に個人情報やプライバシー情報が含まれている場合は、回答の利用をしない

❖ Microsoft Copilotの場合

- デフォルトの設定:プロンプトを学習モデルに利用しない



③著作権の取り扱いには注意する

- ❖ 生成された情報には著作権が発生する
- ❖ 以下の場合には著作権侵害となり得る
 - 類似性がある(創作表現が同一または類似である)
 - 依拠性がある(既存の著作物をもとに創作したこと)
 - 授業中の範囲であれば利用可能→公表や校外での発表では不可

❖ 著作物について

- プロンプトに入力する:OK
- 出力された情報:NG



④AIからの引用を明示する

- ❖ AIを利用した成果物については、AIを利用した旨やAIからの引用を明示する
 - どの生成AIサービスを利用したか
 - どんなプロンプトで生成したか
 - 生成した日付



⑤最後は自分で考え、判断する

- ❖ 生成AIは、よく間違えることもある便利なツールである。
- ❖ 生成AIの出力だけで判断するのではなく、最後は自分自身で考え判断する。
 - 生成AIは、優秀なドジっ子秘書である。

- ❖ 生成された情報の真偽を確かめるのには知識が必要
- ❖ 適切な情報を出力させるのにも知識が必要
- ❖ 自分自身で学ぶ力がより必要とされる時代となる

